

2025 年 5 月 15 日

各 位

東 京 都 千 代 田 区 麴 町 三 丁 目 2 番 4 号
会 社 名 株式会社スリー・ディー・マトリックス
代 表 者 名 代表取締役社長 岡 田 淳
(コード番号：7777)
問 合 せ 先 取 締 役 茂 木 龍 平
電 話 番 号 03 (3511)3440

咽頭表在癌に対する低侵襲治療後の難治性咽頭潰瘍予防効果を評価する 医師主導特定臨床研究開始のお知らせ

株式会社スリー・ディー・マトリックス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：岡田淳、以下「当社」）は、自己組織化ペプチド技術を用いた吸収性局所止血材「ピュアスタット」について、広島大学病院において、咽頭表在癌に対する低侵襲治療後の難治性咽頭潰瘍予防効果の評価を目的とした医師主導の特定臨床研究^{*1}を開始したことをお知らせします。

本研究は、ピュアスタットを治療後に使用することで、潰瘍の発生や重症化を防ぎ、その有効性と安全性を評価する探索的な臨床研究です。

ピュアスタットは 2021 年 12 月より本邦にて保険償還の対象とされ、これまでに消化性潰瘍や癌性出血、大腸憩室出血などに対する内視鏡的止血術において広く使用されております。一方で、咽頭表在癌における潰瘍の予防目的での使用について、前向きに（研究開始後に得られたデータによる研究を意味します。）評価した臨床研究はこれまで実施されておりました。

咽頭表在癌の治療法には、内視鏡治療（ESD^{*2}等）、経口手術（ELPS^{*3}、TORS^{*4}）、外科手術、放射線療法または化学放射線療法があります。なかでも内視鏡治療や経口手術は患者さんへの身体的負担が少ない治療法とされておりますが、こうした「低侵襲医療」においても、病変部を切除した後に生じた咽頭の潰瘍がときに長期間治らないことがあり（難治性潰瘍）、臨床上の問題となっています。そのため、切除後の潰瘍の治癒促進や瘢痕拘縮^{*5}を防ぐことが、新たな医療ニーズとして注目されております。

当社では本特定臨床研究より得られる成果を基に、ピュアスタットが咽頭表在癌治療後の潰瘍予防における標準療法として確立されることを目指してまいります。

なお、本件による通期の業績および中期経営計画への影響はございません。

以上

※1：特定臨床研究とは、医薬品や医療機器の有効性または安全性を明らかにすることを目的としてヒトを対象に行われる臨床研究のうち、企業などから資金提供を受けて実施されるもの、または未承認・適応外の医薬品等を使用するものを指します。これは、臨床研究法に基づき、研究の信頼性や倫理性を確保するために、特に厳格な手続きと管理が求められる研究です。

※2：ESD：Endoscopic submucosal dissection（内視鏡的粘膜下層剥離術）

※3：ELPS：Endoscopic laryngo-pharyngeal surgery（内視鏡下経口切除術）

※4：TORS：Transoral Robotic Surgery（経口的ロボット支援手術）

※5：傷跡が縮むことでのどの通り道が狭くなること